

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 文化・社会					
科目名		オセアニア歴史文化論					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	種石 悠		
到達目標							
現生人類が発生したアフリカからオセアニア海域、さらにはアメリカ大陸、イースター島に到達するまでの歴史と文化について、考古学的手法ほかによって理解できるようにする。 人類の島嶼域における海洋適応について、理解できるようにする。							
成績評価の方法							
毎回講義後のリアクションペーパー(3点×15回＝45点、45%)、期末レポート(55点、55%)							
テキスト							
小野林太郎 2018年『海の人類史 東南アジア・オセアニア海域の考古学』雄山閣 ※初版でも増補改訂版でも構わない。							
その他							
講義内容							
現生人類が発生したアフリカからオセアニア海域に到達するまでの歴史と文化について、また、人類の島嶼域における海洋適応について、考古学の観点から解説する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
博物館学芸員							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 文化・社会
科目名	オセアニア歴史文化論
テキストに沿いながら、適宜スライドを用いて解説する。講義終了後に、リアクションペーパーを記入いただく。講義はテキストの章ごとに毎回進めてゆくので、講義の前に2時間をかけてわからない語句等を予習し、講義後は関連文献などを用いて2時間をかけて復習を行なう。	
授業計画	
第1回	ガイダンス なぜオセアニア史を学ぶのか
第2回	環太平洋と海の人類史①
第3回	環太平洋と海の人類史②
第4回	人類の進化と海との出会い①
第5回	人類の進化と海との出会い②
第6回	旧人・新人による海洋適応と環太平洋圏への進出①
第7回	旧人・新人による海洋適応と環太平洋圏への進出②
第8回	新人によるウォーレンシア海域への進出と海洋適応①
第9回	新人によるウォーレンシア海域への進出と海洋適応②
第10回	完新世～新石器時代の人類拡散と海洋適応①

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 文化・社会	
科目名	オセアニア歴史文化論	
第11回	完新世～新石器時代の人類拡散と海洋適応②	
第12回	金属器時代と海域ネットワークの生成①	
第13回	金属器時代と海域ネットワークの生成②	
第14回	南太平洋の巨石文化と海洋文化の盛衰	
第15回	環太平洋圏と海の文明史	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	講義終了後のリアクションペーパー(3点×15回)
その他	55	期末レポート(55点)

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Advanced Reading I					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
・リーディング教材の内容を理解し、その内容を基に自分の意見や考えを英語で説明できる。 ・リーディング教材で得た情報を活用し、他者と意見交換や議論を行い、自分の考えを発展させることができる。 ・リーディング、ディスカッション及びAIから得た助言を活用し、論理的な構成を意識した英文を書くことができる。							
成績評価の方法							
Unit Tests 40％(10点×4回)、Midterm Test 25％、Final Test 35％ 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。本科目は、15週にわたって実施するユニットパフォーマンステスト、中間パフォーマンステストおよび期末パフォーマンステストの結果を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。 本授業は第1回から開始するため、必ず第1回から出席すること。欠席による不利益は受講者本人の責任とする。							
テキスト							
Sandra Heyer (2019). True Stories 4. Pearson.							
その他							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。本授業では、AIは授業で指示した範囲内に限り、補助的な学習ツールとして使用するものとする。一方、機械翻訳サービス及び翻訳アプリ等の翻訳ツールは、授業内外を問わず使用を認めない。AI又は翻訳ツールを用いて課題等を作成し、それを自らの成果物として提出した場合は、不正行為とみなし、単位を認定しない。また、提出物が受講者本人の授業内での英語運用能力や学習状況と著しく一致しないと教員が判断した場合は、不正行為として取り扱うことがある。							
講義内容							
本授業は、イラスト付きのリーディングパッセージを中心に構成され、読解問題、語彙・文法問題、ディスカッション及び作文演習を行う。テキストの内容理解を基盤とし、パッセージに含まれる語彙や文法事項を活用しながら、自分の考えを他者と共有・発展させるディスカッション活動及び論理的なライティング活動へ展開し、読む・聞く・話す・書くの4技能を統合的に活用する力を養う。また、必要に応じてAIツールを補助的に活用し、会話練習、文章構成の改善及び作文の推敲等を行う。							
受講登録以前に準備すること							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Advanced Reading I
各回では、リーディングパッセージの内容を確認した後、読解問題や語彙・文法演習を通して内容理解を深める。その後、本文の内容や表現を活用したディスカッション及びライティング活動を行い、自分の考えを論理的に表現するとともに、他者との意見交換を通して考えを発展させる。AIツールは補助的に使用し、ディスカッションの練習、文章構成の改善及び作文の自己修正に活用する。読む・聞く・話す・書くの4技能を関連付けながら学習を進め、毎週4時間程度の予習・復習を必要とする。	
授業計画	
第1回	Placement Test, Course Survey, Course Orientation, Unit 5: If You Have Time (Pre-reading, Reading, and Vocabulary)
第2回	Unit 5: If You Have Time (Reading Comprehension, Discussion, and Writing)
第3回	Unit 5: If You Have Time (Discussion and Writing)
第4回	Unit 5 Test, Unit 6: The Buried City (Pre-reading, Reading, and Vocabulary)
第5回	Unit 6: The Buried City (Reading Comprehension, Discussion, and Writing)
第6回	Unit 6: The Buried City (Discussion and Writing)
第7回	Unit 6 Test, Midterm Test, Unit 7: Misunderstandings (Pre-reading, Reading, and Vocabulary)
第8回	Unit 7: Misunderstandings (Reading Comprehension, Discussion, and Writing)
第9回	Unit 7: Misunderstandings (Discussion and Writing)
第10回	Unit 7 Test, Unit 8: A Real Bargain (Pre-reading, Reading, and Vocabulary)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Advanced Reading I	
第11回	Unit 8: A Real Bargain (Reading Comprehension, Discussion, and Writing)	
第12回	Unit 8: A Real Bargain (Discussion and Writing)	
第13回	Unit 8: A Real Bargain (Reading, Discussion, and Writing)	
第14回	Unit 8: A Real Bargain (Reading, Discussion, and Writing), Unit 8 Test	
第15回	Review Activities for Units 5-8, Final Test (Reading, Speaking, and Writing), Course Survey	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	Unit Tests 40% (10点×4回) Midterm Test 25% Final Test 35%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Advanced Writing					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
・論理的かつ一貫性のある構成を意識した英語エッセイを作成し、根拠や具体例を適切に用いて、自分の意見を明確かつ説得力のあるアカデミックライティングとして論述することができる。 ・作成した文章の内容を基に、自分の考えを論理的に英語で説明するとともに、相手の意見を踏まえながら議論を発展させることができる。 ・AIを補助的な学習ツールとして適切に活用し、AIからのフィードバックや他者との対話を参考にしながら、自らの文章を推敲・改善するとともに、修正内容とその理由を説明することができる。							
成績評価の方法							
Unit Tests 40％(10点×4回)、Midterm Test 25％、Final Test 35％ 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。本科目は、15週にわたって実施するユニットパフォーマンステスト、中間パフォーマンステストおよび期末パフォーマンステストの結果を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。 本授業は第1回から開始するため、必ず第1回から出席すること。欠席による不利益は受講者本人の責任とする。							
テキスト							
KANAMURA Toshiyuki, YOSHIZUKA Hiroshi (2026) GENERATE ENGLISH! Using Supportive AI for Active Learners, SEIBIDO							
その他							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。本授業では、AIは授業で指示した範囲内に限り、補助的な学習ツールとして使用するものとする。一方、機械翻訳サービス及び翻訳アプリ等の翻訳ツールは、授業内外を問わず使用を認めない。AI又は翻訳ツールを用いて課題等を作成し、それを自らの成果物として提出した場合は、不正行為とみなし、単位を認定しない。また、提出物が受講者本人の授業内での英語運用能力や学習状況と著しく一致しないと教員が判断した場合は、不正行為として取り扱うことがある。							
講義内容							
本授業では、論理的かつ一貫性のある英語エッセイの作成を通して、アカデミックライティング能力の向上を目指す。論理的な構成や根拠・具体例の示し方を学び、作成した文章を基に意見交換やディスカッションを行う。また、AIを補助的な学習ツールとして活用しながら、文章の推敲・改善を繰り返し、より質の高いアカデミックライティングを完成させる。							
受講登録以前に準備すること							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Advanced Writing
テキスト学習及びワークシートを用いたライティング演習を中心に授業を行う。テキストで学んだ内容を基に英語エッセイを作成し、ペアワークやディスカッションを通して内容を発展させる。また、AIを補助的な学習ツールとして活用し、フィードバックを参考に文章の推敲・改善を行う。毎週4時間程度の予習・復習を必要とする。	
授業計画	
第1回	Placement Test, Pre-course Survey, Course Orientation, Paragraph Writing Review and Essay Writing Review
第2回	Unit 9: Health and Fitness (Model Essay, Grammar, and Paragraph Writing)
第3回	Unit 9: Health and Fitness (Essay Writing, AI Feedback, Discussion, and Rewrite)
第4回	Unit 9 Test, Unit 10: Education and Learning (Model Essay, Grammar, and Vocabulary)
第5回	Unit 10: Education and Learning (Essay Writing, Discussion, and Rewrite)
第6回	Unit 10: Education and Learning (Essay Writing, AI Feedback, Discussion, and Rewrite)
第7回	Unit 10 Test, Midterm Test, Unit 11: Career Choices (Model Essay, Grammar, and Vocabulary)
第8回	Unit 11: Career Choices (Essay Writing, Discussion, and Rewrite)
第9回	Unit 11: Career Choices (Essay Writing, AI Feedback, Discussion, and Rewrite)
第10回	Unit 11 Test, Unit 12: AI and the Future (Model Essay, Grammar, and Vocabulary)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Advanced Writing	
第11回	Unit 12: AI and the Future (Essay Writing, Discussion, and Rewrite)	
第12回	Unit 12: AI and the Future (Advanced Essay Writing, AI Feedback, Discussion, and Rewrite), Unit 12 Test	
第13回	Unit 12: AI and the Future (Advanced Essay Writing, Discussion, and Rewrite)	
第14回	Unit 12: AI and the Future (Advanced Essay Writing, AI Feedback, Discussion, Rewrite, and Unit 12 Test)	
第15回	Review Activities for Units 9-12, Final Test (Writing and Speaking), Post-course Survey	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	Unit Tests 40% (10点×4回) Midterm Test 25% Final Test 35%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Business English II					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1.進出単語を使用して文章を作成することができる 2.授業で学んだ基礎を身につけ、応用ができる 3.TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる 4.TOEICを受験しスコア350点以上を取ることを到達目標とする							
成績評価の方法							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
テキスト							
THE HIGH ROAD TO TOEIC® LISTENING AND READING TEST / Koji Hayakawaら4名 / 金星堂 / ISBN978-4-7647-4045-7 / ￥2,200(税込)							
その他							
グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
講義内容							
企業で一般的に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。 様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿ってTOEIC®の問題パターンに慣れるよう演習を実施する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Business English II
講義・演習を中心に行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習:新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間) 事後学習:授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の概要&進め方、評価の方法、到達目標)
第2回	Unit 1:Travelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回	Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習を文法(時制)及び読解を中心に行う。
第4回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回	Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習を文法(主述の一致)及び読解を中心に行う。
第6回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回	Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習を文法(能動態・受動態)及び読解を中心に行う。
第8回	Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回	Unit 4:Entertainmentをテーマとした実用英語の演習を文法(動名詞・不定詞)及び読解を中心に行う。
第10回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Business English II	
第11回	Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習を文法(代名詞)及び読解を中心に行う。	
第12回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。	
第13回	Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習を文法(品詞)及び読解を中心に行う。	
第14回	Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習を行う。	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading(期末1回)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30%(3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20%(2回各10%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		English Phonology					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
・英語の主要な音声変化(連結、同化、ら行化、脱落)及び英語音声学の基礎概念について説明できる。 ・英語の音声変化や発音の特徴を意識して英文を聞き取り、適切に発音できる。 ・音声学で学んだ発音や表現を会話活動に応用し、相手に伝わりやすい英語でコミュニケーションできる。							
成績評価の方法							
Unit Tests 50％(10点×5回)、Midterm Test 25％、Final Test 25％ 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。 本科目は、15週にわたって実施するユニットパフォーマンステスト、中間パフォーマンステストおよび期末パフォーマンステストの結果を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。 本授業は第1回から開始するため、必ず第1回から出席すること。欠席による不利益は受講者本人の責任とする。							
テキスト							
StudyHacker ENGLISH COMPANY, 2020,『5つの音声変化がわかれば英語はみるみる聞き取れる』, マイナビ出版。							
その他							
授業計画は、学生の理解度及び習熟度の状況に応じて変更する場合がある。本授業では、AIは授業で指示した範囲内に限り、補助的な学習ツールとして使用するものとする。一方、機械翻訳サービス及び翻訳アプリ等の翻訳ツールは、授業内外を問わず使用を認めない。AI又は翻訳ツールを用いて課題等を作成し、それを自らの成果物として提出した場合は、不正行為とみなし、単位を認定しない。また、提出物が受講者本人の授業内での英語運用能力や学習状況と著しく一致しないと教員が判断した場合は、不正行為として取り扱うことがある。							
講義内容							
本授業では、英語の音声変化(連結、同化、ら行化、脱落)を中心に、英語音声学の基礎を学ぶ。教科書及び音声教材を用いて発音や聞き取りを練習した後、学習した表現を用いた会話活動を行い、実際のコミュニケーションで活用する力を養う。また、必要に応じてAIツールを補助的に活用し、例文作成、会話練習、発話の振り返り等を行い、発音と会話力の向上を目指す。							
受講登録以前に準備すること							
毎回の授業には、テキストおよびパソコン(スマートフォンは使用不可)を必ず準備のうえ持参すること。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	English Phonology
教科書及び音声教材を用いて英語音声学の基礎を学ぶ。発音及び聞き取りの練習を行った後、学習した表現を用いて個人練習やペアでの会話練習に取り組む。また、Unit Test及び会話テストを通して、音声学の知識を実際のコミュニケーションに応用する機会を設ける。必要に応じてAIツールを補助的に活用し、例文作成、会話練習及び発話の振り返りを行う。毎週4時間程度の予習・復習を要する。	
授業計画	
第1回	Placement Test, Pre-course Survey, Course Orientation, Introduction to English Phonology
第2回	Unit 1: Linking (Rules, Listening, Repeat, Overlapping, and Dictation)
第3回	Unit 1: Linking (AI-supported Conversation Practice, Pair Work, and Application Activities)
第4回	Unit 1 Test, Unit 2: Assimilation (Rules, Listening, Repeat, and Overlapping)
第5回	Unit 2: Assimilation (Dictation, AI-supported Conversation Practice, Pair Work, and Application Activities)
第6回	Unit 2 Test, Unit 3: Flapping (Rules, Listening, Repeat, and Overlapping)
第7回	Unit 3: Flapping (Dictation, AI-supported Conversation Practice, Pair Work, and Application Activities)
第8回	Unit 3 Test, Pronunciation and Conversation Practice (Units 1-3)
第9回	Midterm Test, Unit 4: Elision 1 (Rules, Listening, Repeat, and Overlapping)
第10回	Unit 4: Elision 1 (Overlapping, Dictation, AI-supported Conversation Practice, Pair Work, and Application Activities)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	English Phonology	
第11回	Unit 4 Test, Unit 5: Elision 2 (Rules, Listening, Repeat, and Overlapping)	
第12回	Unit 5: Elision 2 (Dictation, AI-supported Conversation Practice, Pair Work, and Application Activities)	
第13回	Unit 5: Elision 2 (Integrated Pronunciation and Conversation Practice)	
第14回	Unit 5: Elision 2 (Application Activities, Unit 5 Test, and Course Wrap-up)	
第15回	Review Activities for Units 1-5, Final Test, and Post-course Survey	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	Unit Tests 50% (10点×5回) Midterm Test 25% Final Test 25%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		English for Tourism					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1.海外旅行の流れについて知る。 2.事前に必要な旅行準備や入国書類などについて理解する。 3.自身の旅行知識を活用できるようになる。 4.海外を訪問することの意義について学ぶ。 以上について英語で説明できる。							
成績評価の方法							
授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%							
テキスト							
世界中使える 瞬時に話せる旅行英会話大特訓 / 柴山かつの / Jサーチ出版 / 2024年 / ISBN978-4-8639-2615-8 / 1,320円(税込)							
その他							
個人でのプレゼンテーションを行ってもらおう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で課題や小テストを行うので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
講義内容							
テキストを使いながら、配布プリントも使って進めていく							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	English for Tourism
毎回配布資料またはテキストを読み、理解し、それを英語で説明できるよう演習する。 その後授業内課題(レポート)もしくは小テストを行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 【事前学習】各回の授業テーマに該当する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。(週各2時間)。 【事後学習】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法)
第2回	航空関係の英語① @空港でチェックイン
第3回	航空関係の英語② @機内
第4回	ホテルの英語① @ホテルでチェックイン
第5回	ホテルの英語② @客室でトラブル
第6回	ショッピングでの英語① @ショッピングセンター
第7回	ショッピングでの英語② @ブランド店
第8回	旅行先での会話① @鉄道駅や観光地
第9回	旅行先での会話② @レストラン
第10回	旅行先での会話③ @財布を盗まれ警察署

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	English for Tourism	
第11回	世界の観光地	
第12回	日本の観光地	
第13回	欧米の文化	
第14回	海外での笑い話と笑えない話	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内レポート40%(2回各20%)・小テスト 40%(4回各10%) 定期試験に代わるレポート 20%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Extensive Reading II（日）					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
到達目標							
日本語能力試験N2・N3レベルの日本語の語彙について論じたり説明することができる。 日本語能力試験N2・N3レベルの日本語の運用をすることができる。							
成績評価の方法							
授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・試験(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 氏原康子・佐伯玲子共著(2017)『日本語能力試験N2語彙必修パターン』有限会社Jリサーチ出版 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
その他							
授業計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
講義内容							
まず、日本語能力試験N3レベルの語彙事項の復習をし、練習問題を解く。 次に、N2レベルの語彙事項を学び、練習問題を解く。 最後にN2レベルの模擬試験の問題を解いてみる。							
受講登録以前に準備すること							
日本語能力試験N3・N4レベルの日本語の語彙の知識を習得していることが望ましい。							
取得可能な資格							
日本語能力試験N2・N3の合格を目指すことができる。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading II (日)
毎回語彙事項の説明をした後、練習問題を解いてみる。その後問題の正答と解説をする。小テストを実施することがある。復習として課題を作成し次の週に提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。期末には模擬テストや課題作成を実施する。	
授業計画	
第1回	語彙の基礎編①: 伸ばす音・伸ばさない音
第2回	語彙の基礎編②: 詰まる音・詰まらない音
第3回	語彙の基礎編③: 「清音」「濁音」「半濁音」
第4回	語彙の基礎編④: 「ん」が入る音
第5回	語彙の基礎編⑤: 漢字の訓読みに注意したい言葉
第6回	語彙の基礎編⑥: いろいろな読み方をする初級漢字
第7回	語彙の基礎編⑦: 読み方が同じ言葉
第8回	N2語彙問題の対策準備①: 漢字の訓読みに注意したい言葉
第9回	N2語彙問題の対策準備②: いろいろな意味を持つ言葉
第10回	N2語彙問題の対策準備③: 形が似ている言葉

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading II (日)	
第11回	N2語彙問題の対策準備④:意味が似ている言葉	
第12回	N2語彙問題の対策準備⑤:一字で言葉になるもの	
第13回	N2語彙問題の対策準備⑥:前に付く語・後ろに付く語	
第14回	N2語彙問題の対策準備⑦:特別な読み方の言葉、「たとえ」の表現	
第15回	N2語彙模擬試験、解答と解説	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への参加度(30%):授業での説明を聴いたり練習をする態度・姿勢、積極性などによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題にをちゃんと取り組んでいるか、ちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	期末課題・試験(40%)、最後の授業の時模擬試験を行う。模擬試験に真剣に取り組んでいるか、問題がどれだけできたかで評価する。40点満点。

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	Extensive Reading IV (日)						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	黄 美花		
到達目標							
・幅の広い話題についての情報や記事を読んで、主要点が把握できる。 ・社会、専門、学問の分野で出合う可能性のある、ある程度長い、複雑なテキストが理解できる。 ・自分の専門分野での議論を含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、共通語で話されれば理解できる。							
成績評価の方法							
授業への参加度30%(2点×15回)、課題(宿題含む)30%(5点×6回)、聴解20%(5点×4回)、発表20%(5点×4回)により総合的に評価する。							
テキスト							
・指定テキストは特になし。 ・必要に応じて、その都度ハンドアウトを配布する。							
その他							
・アクティビティに積極的に参加すること。 ・学習した日本語はできるだけ使うように心がけること。							
講義内容							
・授業の主な言語活動は、「理解すること(聞くこと+読むこと)」(B2～C1)である。読む活動に加えて、発表も行う。 ・N1の聴解練習を行う。							
受講登録以前に準備すること							
特になし。							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading IV (日)
・「読む＋話す」、「聞く＋話す」活動を繰り返し行う。 ・ルーブリック表を用い、評価及びフィードバックを行う。 ・学期はじめに設定した各テーマに沿って、各自で週4時間程度の予・復習が必要となる。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション、レベルテスト (※初回レベルテストを行うので、必ず参加すること)
第2回	読み物(1)－1
第3回	読み物(1)－2
第4回	読み物(2)－1
第5回	読み物(2)－2
第6回	聴解練習(1)、解答と解説
第7回	聴解練習(2)、解答と解説
第8回	読み物(3)－1
第9回	読み物(3)－2
第10回	読み物(4)－1

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading IV (日)	
第11回	読み物(4)－2	
第12回	聴解練習(3)、解答と解説	
第13回	聴解練習(4)、解答と解説	
第14回	全体発表会(1)、課題の振り返り	
第15回	全体発表会(2)、フィードバック	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加度30%(2点×15回)、課題(宿題を含む)30%(5点×6回)
その他	40	聴解20%(5点×4回)、発表20%(5点×4回)

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Extensive Reading IV (英)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	杉山 維彦		
到達目標							
1. 基本的な英語の知識(語彙、英文法)を習得し、テキストの英文をより正確に理解することができる。 2. テキストの英文を正しい発音でスムーズに音読することができる。 3. 英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできる。 4. テキストの英文内容を理解し、テーマについての知識を広げたり理解を深めたりできる。							
成績評価の方法							
授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%) 定期試験(期末試験) 50%							
テキスト							
Reading Link / Robert Hickling, Misato Usukura / 金星堂 / ￥2,310 / 2024年 / ISBN978-4-7647-4100-3							
その他							
グループワークや個人でのプレゼンテーションを行ってもらう。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行うことがあるので、欠席にした場合はその点数が無くなる。 定期試験(期末試験)を実施するが詳細は授業内で発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。							
講義内容							
基本的にテキストを使用し、その単元を順番に行っていく。 なお、学生に返答を求める。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Extensive Reading IV (英)
講義・演習を中心に行う。 授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要。 事前学習:新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。(週各2時間) 事後学習:授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、テキストの空欄を充填する。(週各2時間)	
授業計画	
第1回	プロローグ & ガイダンス(授業の進め方・評価法など)
第2回	Unit 1 Who Is Pepper? [現在形]
第3回	Unit 2 ① What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? [代名詞]
第4回	Unit 2 ②
第5回	Unit 3 ① Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? [過去形]
第6回	Unit 3 ②
第7回	Unit 4 ① How Do Americans Celebrate Halloween? [可算名詞・不可算名詞]
第8回	Unit 4 ②
第9回	Unit 5 ① Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? [時と場所を表す前置詞]
第10回	Unit 5 ②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Extensive Reading IV (英)	
第11回	Unit 6 ① Are You Going Cashless? [進行形]	
第12回	Unit ②	
第13回	Unit 7	
第14回	Unit 8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? [動名詞・不定詞]	
第15回	エピローグ & まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	50	Listening & Reading (期末試験)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内での評価(単語Quiz・発表など) 30% (3回各10%) 授業外での評価(Reading演習など) 20% (2回各10%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Intensive Reading IV (日)					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
日本語の文章を、ただ読むだけではなく、内容を理解、解釈し、自らの言葉で再構築することを目標とする。 学術論文を中心に、専門的な内容の文章の読解を翻訳ツール等を使用せずに読む。							
成績評価の方法							
授業毎の確認小課題 15回×3点(45%) 講義への積極的参加 15回×2点(30%) レポート試験 25%							
テキスト							
特になし。適宜配布する。							
その他							
講義内容は変更になる可能性がある。 事前に配布される資料を読み、ある程度内容を把握しておく(4時間程度)							
講義内容							
本講義では、学術論文を中心とした専門的な日本語文章を教材とし、単なる読解にとどまらず、内容を理解・解釈し、自らの言葉で再構築する力を養うことを目指す。受講者は翻訳ツール等に依存することなく、文献の論理構造や表現形式を分析しながら読解を進める。さらに、読んだ内容を要約・批評・応用する演習を通じて、学術的な議論を自ら展開する基盤を培う。							
受講登録以前に準備すること							
取得可能な資格							
特になし。							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Intensive Reading IV(日)
配布される学術論文の要点や文法、わかりづらい単語など、文章に関する内容を講師が解説する。毎講義後には、講義内容に対応する読解問題や要約、意見文の作成などを随時行う。	
授業計画	
第1回	ガイダンス 講義計画の説明
第2回	読解の基礎の復習
第3回	読解の基礎の復習
第4回	読解の基礎の復習
第5回	読解の基礎の復習
第6回	長文読解
第7回	長文読解
第8回	長文読解
第9回	長文読解
第10回	長文読解

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Intensive Reading IV (日)	
第11回	長文読解と要約、再構築	
第12回	長文読解と要約、再構築	
第13回	長文読解と要約、再構築	
第14回	長文読解と要約、再構築	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	75	講義への積極的参加 15回×2点(30%) 授業毎の確認小課題 15回×3点(45%)
その他	25	レポート試験 25%

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		Public Speaking					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
・Communication Strategies (CSs)を状況に応じて適切に活用し、英語による自然で継続的なコミュニケーションを実践できる。 ・複数のCSsを統合的に活用し、相手との相互作用を維持・発展させながら、円滑なコミュニケーションを実践できる。 ・AIを補助的に活用して会話練習や振り返りを行い、自身の発話を改善できる。							
成績評価の方法							
ユニットパフォーマンステスト:50% (10点×5回) 中間パフォーマンステスト:25%、期末パフォーマンステスト:25% 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。本科目は、15週にわたって実施するユニットパフォーマンステスト、中間パフォーマンステストおよび期末パフォーマンステストの結果を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。 本授業は第1回から開始するため、必ず第1回から出席すること。欠席による不利益は受講者本人の責任とする。							
テキスト							
David Kehe、2014、Conversation Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
その他							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。本授業では、AIは授業で指示した範囲内に限り、補助的な学習ツールとして使用するものとする。一方、機械翻訳サービス及び翻訳アプリ等の翻訳ツールは、授業内外を問わず使用を認めない。AI又は翻訳ツールを用いて課題等を作成し、それを自らの成果物として提出した場合は、不正行為とみなし、単位を認定しない。また、提出物が受講者本人の授業内での英語運用能力や学習状況と著しく一致しないと教員が判断した場合は、不正行為として取り扱うことがある。							
講義内容							
本授業では、Communication Strategies (CSs)の応用的な活用を通して、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。教科書で扱うCSsを活用し、会話の継続、話題の展開、意味交渉、意見交換などの実践活動を行い、複数のCSsを統合的に活用できるようにする。また、各活動後には振り返りを行い、自身のコミュニケーションの特徴や改善点を整理する。必要に応じてAIツールを補助的に活用し、会話練習、表現の改善および発話の振り返りを行う。							
受講登録以前に準備すること							
テキストとパソコンを各自で必ず用意すること。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	Public Speaking
本授業では、Communication Strategies (CSs) の実践的運用を重視し、ペアワークやグループワークによる会話活動を中心に授業を進める。各回では教科書で扱うCSsを学習した後、AIを活用した練習、ペアディスカッション、統合的な会話活動を行う。活動後にはワークシートを用いて自己評価および振り返りを行い、CSsの活用方法や改善点を確認する。テキストの予習・復習および継続的な会話練習を通して、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎週4時間程度の予習・復習が必要。	
授業計画	
第1回	Fillers, Rejoinders・Shadowing・Follow-up Questions (Review & Integrated Practice)
第2回	Clarification・Confirmation・Keeping the Conversation
第3回	Integrated Communication Strategies 1: Performance Task
第4回	Getting a Response・Soliciting Details
第5回	Responding with Details・Topic Development
第6回	Integrated Communication Strategies 2: Performance Task
第7回	Finding the Right Word・Exploring a Word
第8回	Meaning Negotiation & Lexical Support
第9回	Integrated Communication Strategies 3: Performance Task
第10回	Expressing Opinions・Agreeing & Disagreeing

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	Public Speaking	
第11回	Supporting Opinions (Reasons & Examples)	
第12回	Integrated Communication Strategies 4: Performance Task	
第13回	Integrated Communication Strategies (Review)	
第14回	Integrated Communication Strategies: Discussion Practice	
第15回	Integrated Communication Strategies: Final Performance Test & Course Reflection	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	ユニットパフォーマンステスト:50%(10点×5回) 中間パフォーマンステスト:25%、期末パフォーマンステスト:25%
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
中級レベル文法の完全マスターを目指す。中国語の中級レベルの聞く・話す能力を身につける。							
成績評価の方法							
・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の課題は2点とする。 ・期末試験(40%)							
テキスト							
姜麗萍 (2015)『スタンダードコース中国語 -中国語の世界標準テキスト3							
その他							
・予習・復習は充分にやってくる。予習復習時間として毎週授業時間と同等の時間が必要となる。 ・グループワークやロールプレイなどのクラス活動に積極的に参加すること。また、教室内外で積極的に話しかける姿勢で臨んで欲しい。 ・語学は積み重ねが重要なので、正当な理由がない遅刻と欠席をしないこと。							
講義内容							
この授業では、中級レベルの単語・文法・表現を勉強し、また、勉強した単語・文法・表現を使って、読む・書く・聞く・話す練習をする。							
受講登録以前に準備すること							
テキスト、辞書							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ
対面講義、テキストに沿って、進める。 授業する前に、新しい単語、テキストの内容を予習する必要がある。 授業後、単語を覚えるなどしっかり復習することが大事。 1回の授業につき、予習2時間と復習2時間が必要とする。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション 第1課 周末你有什么打算 週末はあなたはどんな予定がありますか
第2回	第2課 他什么时候回来 彼はいつ帰ってきますか
第3回	第3課 桌子上放着很多饮料 机の上には多くの飲み物が置いてあります
第4回	第4課 她总是笑着跟客人说话 彼女はいつも笑って客と話をします
第5回	第5課 我最近越来越胖了 私は最近だんだん太ってきました
第6回	第6課 怎么突然找不到了 なぜ急に見当たらなくなったのでしょうか
第7回	第7課 我跟他都认识五年了 私は彼女と知り合ってもう5年になります
第8回	第8課 你去哪我就去哪 あなたの行くところに私は行きます
第9回	第9課 她的汉语说得跟中国人一样好 彼女の中国語は中国人と同じくらい上手です
第10回	第10課 数学比历史难多了 数学は歴史よりずっと難しいです

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	インテンシブ中国語Ⅲ	
第11回	第11課 别忘了把空调关了 空調を切るのを忘れないでください	
第12回	第12課 把重要的东西放在我这儿吧 大切なものは私のところに置いてください	
第13回	第13課 我是走回来的 私は歩いて帰ってきたのです	
第14回	第14課 你把水果拿过来 果物を持ってきてください	
第15回	第15課 其他都没什么问题 そのほかは何も問題ありません	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に会話などの練習に参加する必要がある。毎回の授業は2点とする。 ・課題の提出(30%):単語テスト、例文作成。毎回の課題は2点とする。
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	ビジネス日本語Ⅱ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	中田 和則		
到達目標							
・ビジネスで使用する日本語とビジネス文書を習得し、適切に使用できるようにする。 ・日本のビジネス慣習を理解し、適切な判断と行動ができるようにする。							
成績評価の方法							
定期試験は実施しない。授業への参画度(40%)、各授業での積極的な発言、質疑応答やロールプレイ、ビジネスに関する日本語のプレゼン発表(60%)合計100点で成績評価する。理由のある欠席は4回まで認める。特別な事情のない欠席5回以上は単位を認めない。							
テキスト							
配布資料を使って授業を進める。 〈参考資料〉 ・加藤清方2021年『BJTビジネス日本語能力テスト』入門 わかるビジネス日本語 アスク出版 ・加藤清方2015年『BJTビジネス日本語能力テスト』公式模擬テスト&ガイド 日本漢字能力検定協会 他							
その他							
日本語レベルC段階の留学生のみ受講可能。							
講義内容							
日本語上級(C1以上)の留学生を対象とし、ロールプレイやペアワーク等を通して、ビジネスの場面で必要な日本語表現やマナーを実践的に学ぶ。また、BJTビジネス日本語能力テストの練習問題を解きながら、ビジネス文書やビジネス慣習に関する知識を蓄え、運用能力を高める。							
受講登録以前に準備すること							
日本語の新聞各紙(全国紙・地方紙・経済専門紙等)を読む習慣をつけ、ビジネスに関する最新の情報の収集を図っておくこと。							
取得可能な資格							
BJTビジネス日本語能力検定							
授業の方法							

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語Ⅱ	
一方的な講義にならないように、毎回、発言を求める。最終回は、各自による、ビジネステーマのプレゼン発表を実施する。 予復習は毎回4時間が必要。		
授業計画		
第1回	オリエンテーション	
	担当教員	中田 和則
第2回	自己紹介の方法	
	担当教員	中田 和則
第3回	メールの書き方	
	担当教員	中田 和則
第4回	実践問題①	
	担当教員	中田 和則
第5回	実践問題②	
	担当教員	中田 和則
第6回	書類の作り方	
	担当教員	中田 和則
第7回	手紙の出し方	
	担当教員	中田 和則
第8回	実践問題③	
	担当教員	中田 和則

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語Ⅱ	
第9回	実践問題④	
	担当教員	中田 和則
第10回	会議の進め方	
	担当教員	中田 和則
第11回	議事録の取り方	
	担当教員	中田 和則
第12回	実践問題⑤	
	担当教員	中田 和則
第13回	実践問題⑥	
	担当教員	中田 和則
第14回	総合演習	
	担当教員	中田 和則
第15回	総合演習 ビジネステーマによるプレゼン発表	
	担当教員	中田 和則
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参画度(40%)、各授業での積極的な発言、質疑応答やロールプレイ、ビジネスに関する日本語のプレゼン発表(60%)合計100点で成績評価する。理由のある欠席は4回まで認める。特別な事情のない欠席5回以上は単位を認めない。

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	ビジネス日本語Ⅱ	
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	中国語コミュニケーションⅡ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
標準語に近い発音ができる。 日常生活様々な場面のピックについて中国語で会話することができる。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
『中国語会話301』(下) (2015、語文研究社)							
その他							
講義内容							
日常のいろいろな場面で使われる表現について学ぶ。運用能力を磨き、中国人と簡単な会話ができるようになることを目指す。積極的にコミュニケーションを取る機会を提供する。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	中国語コミュニケーションⅡ
スライドやプリントを利用し表現練習などを行い、話す練習をする。必要に応じて、ペアを組んでの対話練習や教師と1対1の対話練習など使い分けながら、相互的で、実践的なコミュニケーションを可能な限り行う。予習、復習時間を2時間ずつとする。	
授業計画	
第1回	招く ご参加ください
第2回	婉曲に断る 行けません
第3回	残念 彼に会えなくて残念です
第4回	祝賀 おめでとう
第5回	忠告 たばこをやめてください
第6回	比較 今日は昨日より寒いです
第7回	言葉 ゆっくり話してください
第8回	旅行
第9回	診察を受ける 頭が痛いです
第10回	お見舞い 少し良くなりましたか

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	中国語コミュニケーションⅡ	
第11回	お別れの挨拶 もうすぐ帰国します	
第12回	送別会 あなたたちと別れたくない	
第13回	託送 ここは荷物送れますか	
第14回	送別	
第15回	授業のまとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	期末試験 10分ぐらいの口頭試問
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%)、 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):課題、小テストなどをちゃんとできているかによって評価する。 (毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科						
区分	専門科目 言語文化						
科目名	中日翻訳Ⅱ						
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C322	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
専門分野の翻訳対応力向上。 文化的ニュアンスの処理ができる。							
成績評価の方法							
出席・授業への参加度(30%)、授業内の課題、小テスト(30%)、期末テスト(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
視聴覚資料、印刷物は用意する。 参考書『中译日实例解析』俞瑞良 徐旻 2002 大连出版社 上海海文音像出版社							
その他							
日本人学生も中国人学生も受講可 受講者によって、講義難易度、計画を変更する可能性がある。							
講義内容							
翻訳の実例を分析しながら、いろいろなジャンルの文章を翻訳して、解析する。							
受講登録以前に準備すること							
辞書							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	中日翻訳Ⅱ
理論解説、対照言語分析、実践翻訳演習、添削フィードバックの流れで講義を行う。 授業後、単語の意味、翻訳方法などの復習が必要。目安は週に4時間ぐらい。	
授業計画	
第1回	人称代名詞の翻訳
第2回	常用動詞の翻訳
第3回	成語、諺の翻訳
第4回	省略、補って訳す。
第5回	区切って訳す、適合して訳す
第6回	意識
第7回	使役文の翻訳
第8回	受け身文の翻訳
第9回	実務翻訳①
第10回	実務翻訳②

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	中日翻訳Ⅱ	
第11回	実務翻訳③	
第12回	実務翻訳④	
第13回	実務翻訳⑤	
第14回	実務翻訳⑥	
第15回	総まとめ 課題テスト	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	筆記の翻訳テスト 中→日(20%) 日→中(20%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	出席、授業への参加度(30%) 授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題、小テスト(30%):課題や小テストちゃんとできているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		日本語コミュニケーションⅣ					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
到達目標							
中級後期から上級水準の日本語コミュニケーションができる。 多様な内容を聞き取ることができ、事実や自分の考えを上手に紹介・説明でき、重要な内容について相手と交渉でき、意見の異なる相手と日本語で議論できる。 自分の考えや多様な情報の中から選んでまとめたものなどを相手にわかりやすいように発表・伝達・説明できる。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末課題・発表(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
視覚資料、印刷物などを配布。場合によって映像を見る。 その他の参考文献は授業中に紹介する。							
その他							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
講義内容							
各時間に、まずそれぞれのテーマや場面で使われる文章や表現などについての聴解練習を行う。その後聴解練習で出た内容の文章を学び、その文章や表現を利用して、会話練習や発表練習をする。期末にはテーマや場面・内容を選んで口頭発表の練習をし、課題を作成し提出をする。							
受講登録以前に準備すること							
日本語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲの単位を取得しているか、それに相当する日本語能力を有していることが望ましい。日本人学生の受講も可。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本語コミュニケーションⅣ
最初に、視覚資料や印刷物を利用し文章や表現や語句の聴解練習などを行う。その後学んだ語句や表現、文を利用して、新たな自分の文章を作成し、発表の練習をする。必要に応じて、2人でペアを組んでの対話練習やグループでの討論練習、教師との1対1の対話練習などを使い分けながら実戦的な会話練習を可能な限り行う。復習としてその週のテーマの課題を作成し次の週に発表・提出させる。復習時間は毎週4時間程度必要。	
授業計画	
第1回	ガイダンス、授業について 長文の会話文の聴解練習と会話練習1
第2回	長文の会話文の聴解練習と会話練習2
第3回	長文の会話文の聴解練習と会話練習3
第4回	長文の会話文の聴解練習と会話練習4
第5回	長文の会話文の聴解練習と会話練習5
第6回	長文の会話文の聴解練習と会話練習6
第7回	長文の説明文の聴解練習と会話練習1
第8回	長文の説明文の聴解練習と会話練習2
第9回	長文の説明文の聴解練習と会話練習3
第10回	長文の説明文の聴解練習と会話練習4

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本語コミュニケーションⅣ	
第11回	長文の文章を読んで意見文作成と意見を言う練習1	
第12回	長文の文章を読んで意見文作成と意見を言う練習2	
第13回	長文の文章を読んで意見文作成と意見を言う練習3	
第14回	口頭発表1	
第15回	口頭発表2	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。 授業への貢献度(30%):授業での説明を聞いたり練習を行う時の姿勢態度や積極性の有無・程度などによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):毎回の課題を要求通りに作成し提出したか、課題の問題を正確に解答できているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	期末口頭発表と課題提出(40%):期末口頭発表10点満点、課題30点満点、計40点満点。口頭発表が確実に正確にできたか、要求された課題を確実に作成し提出したかによって評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		専門科目 言語文化					
科目名		日本文学B					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	選択必修
種類	講義	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	星野 芳輝		
到達目標							
文献講読を通じ、日本の文学作品に親しむ。 また、自らの言葉で文学を解説し、その解釈を行うことができる。							
成績評価の方法							
講義への積極的参加 1%×15回（15%） 期末レポート25% 書評（発表）30%×2							
テキスト							
適宜指示。 図書館にある文学作品を使用する。							
その他							
講義内容は変更になる可能性がある。 自主的な文献講読と書評の準備（4時間以上）							
講義内容							
日本文学作品講読を通じ、文学に親しむ。 また、文学作品をより深く理解するために、文献書評を行い、その発表を通じて議論する。 毎講義必ず指定の書籍の音読を行い、解釈や意味について、自らの意見を発表する。							
受講登録以前に準備すること							
必須要件ではないが一定以上の日本語理解能力を求める。 文学作品を自ら読むことができることを前提とする。							
取得可能な資格							
なし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	専門科目 言語文化
科目名	日本文学B
文学作品講読を中心に行う。書評を通じて議論を行い、文学に対する理解を深める。	
授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	現代文学を読む
第3回	現代文学を読む
第4回	現代文学を読む
第5回	現代文学を読む
第6回	近代文学を読む
第7回	近代文学を読む
第8回	近代文学を読む
第9回	近代文学を読む
第10回	近代文学を読む

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	専門科目 言語文化	
科目名	日本文学B	
第11回	古典文学を読む	
第12回	古典文学を読む	
第13回	古典文学を読む	
第14回	古典文学を読む	
第15回	まとめと振り返り	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	40	講義への積極的参加 1%×15回 (15%) 期末レポート25%
その他	60	書評(発表) 30%×2

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナールⅡ（福本）					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
到達目標							
・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。							
成績評価の方法							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度（30%） 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート（30%） 論証型レポート（40%）							
テキスト							
・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版							
その他							
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。							
講義内容							
テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(福本)
まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(福本)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナールⅡ（田）					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
到達目標							
・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。							
成績評価の方法							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度（30%） 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート（30%） 論証型レポート（40%）							
テキスト							
・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版							
その他							
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。							
講義内容							
テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(田)
まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(田)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		基礎ゼミナールⅡ（黄）					
副題							
対象	全学年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	1	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C204	担当教員	福本 達也、田 桃雨、黄 美花		
到達目標							
・テキストを読んで趣旨・内容を理解し、要点をまとめることができるようになる。 ・テキストを読んで、その内容などに対する自分の考えをまとめ、その根拠も含めて人にわかりやすく説明できるようになる。 ・学術的なレポートが書けるようになる。							
成績評価の方法							
テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度（30%） 意見文の作成、レジュメ、ショートレポート（30%） 論証型レポート（40%）							
テキスト							
・主テキスト:授業中に提示・指示をする。 ・参考テキスト:新田誠吾(2019)『これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版							
その他							
各クラスの進捗状況により、内容および進度を変更することがある。							
講義内容							
テキストを読んで、内容を理解したり趣旨・要点をまとめた上で、その文章に対する自分の主張や意見を論理的に述べる力を養う。さらに、レポート作成の演習を通して、論証型レポートを作成する能力を培う。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	基礎ゼミナールⅡ(黄)
まず、テキストを読んで要点や内容について発表やディスカッションを行い文章の内容を理解したうえで、自分の主張や意見を論理的に述べる口頭発表や意見文作成をする。さらに、レポート作成の方法を学び、レポート作成の演習を行う。毎回課外学習(予・復習)として文章精読をさせる。課外学習時間(予・復習)は毎週4時間程度必要。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション:授業の進め方
第2回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-1)
第3回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(1-2)
第4回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-1)
第5回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(2-2)
第6回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-1)
第7回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(3-2)
第8回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-1)
第9回	テキストの輪読、意見文・レジュメの作成、発表(4-2)
第10回	論証型レポートの作成、準備(1)

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	基礎ゼミナールⅡ(黄)	
第11回	論証型レポートの作成、準備(2)	
第12回	論証型レポートの作成、準備(3)	
第13回	論証型レポートの作成、準備(4)	
第14回	論証型レポートの作成、準備(5)	
第15回	論証型レポートの作成、準備(6)	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない テキストの輪読、ディスカッション等、授業への貢献度(30%):授業での輪読ができるか、テキストの内容についてディスカッションできるかなどの度合いによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):意見文の作成、レジュメ、ショートレポートなどの課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	論証型レポート提出。40点満点。テキストの内容を理解して、その内容に対する自分の意見を証拠を示しながら論じるレポートが作成できているかどうかで評価する。また、レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅡ					
副題							
対象	2年、3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C102	担当教員	種石 悠、山中 慎、田 桃雨、末富 弘、高橋 あすか、瀬名波 栄潤		
到達目標							
研究におけるレポート・論文作成能力を得る。 興味を持つ専門分野を見つけ、来年度以降に向けて研究の基礎を構築する。							
成績評価の方法							
各2回(初回3回)のゼミ終了後の小レポート(3点×15回、45%):各教員が自由に設定。 期末レポート(55点、55%):期末レポート課題を提示する。担当教員で採点を分担。教員の裁量で評価する。							
テキスト							
佐渡島紗織ほか2021『これから研究を書くひとのためのガイドブック[第2版]』ひつじ書房							
その他							
授業全体に関する質問等があれば責任教員(種石)に連絡すること。 その他、各ゼミに関する質問は各担当教員に直接質問すること。							
講義内容							
大学での重要な活動の1つに「研究」がある。北洋大学では、専門ゼミナールおよび卒業研究を通して研究活動を行う。研究活動を行うためには、どのような専門分野があるのか、各専門分野ではどのような手法を用いるのかを知り、研究についての具体的なイメージを持つ必要がある。 専門ゼミナールⅠおよびⅡでは、テキストを参考文献として用いながら、レポート・論文の書き方について各項目を設定して解説する。その際、各教員の専門分野に照らし合わせながら説明する。各教員のゼミにより各専門分野に触れることによって、研究とはどのようなものかを知り、自分がどのような専門分野について研究するのかを考える。							
受講登録以前に準備すること							
特になし							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅡ
受講生に対して、7名の教員が2回ずつ(初回のみ3回)順番にゼミを担当する。 テキストの項目に沿って解説してゆくので、受講生はゼミの前に不明な語句等について2時間を変えて予習し、ゼミのあとは関連文献などを用いて2時間をかけて復習をすること。	
授業計画	
第1回	文章の書き方。論文とは何か。
第2回	文章の書き方。論文とは何か。
第3回	文章の書き方。論文とは何か。
第4回	テーマを決める
第5回	テーマを決める
第6回	文献研究
第7回	文献研究
第8回	文献研究
第9回	文献研究
第10回	実証研究

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅡ	
第11回	実証研究	
第12回	実証研究	
第13回	実証研究	
第14回	研究計画書を書く	
第15回	研究計画書を書く	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	45	ゼミ後の小レポート・小テスト (3点×15回)
その他	55	期末レポート 55点

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(高橋)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C318	担当教員	高橋 あすか		
到達目標							
・Communication Strategies(CSs)を使用し、スムーズで自然な英会話ができるようになる。 ・会話分析をすることにより、コミュニケーション能力と相互作用能力をさらに向上させるためのアプローチを検討し、実践できる。							
成績評価の方法							
レポート: 20%, パフォーマンステスト: 80%(20点×4回) 欠席は4回までとする。5回以上欠席した場合は、単位認定不可。 本科目は、15週にわたって実施する課題提出、レポート、実技を含むパフォーマンステスト等の複数の評価要素を総合して評価するため、定期試験、再試験および追試験は実施しない。							
テキスト							
David Kehe, 2012, Discussion Strategies, Second Edition, ProLingua Associates							
その他							
授業計画は、学生の理解度および習熟度の状況に応じて変更する場合がある。本授業では、AIは授業で指示した範囲内に限り、補助的な学習ツールとして使用するものとする。一方、機械翻訳サービス及び翻訳アプリ等の翻訳ツールは、授業内外を問わず使用を認めない。AI又は翻訳ツールを用いて課題等を作成し、それを自らの成果物として提出した場合は、不正行為とみなし、単位を認定しない。また、提出物が受講者本人の授業内での言語運用能力や学習状況と著しく一致しないと教員が判断した場合は、不正行為として取り扱うことがある。							
講義内容							
段階を踏んだ基礎練習、そして豊富なスピーキング練習を通じて、実践的な英会話を学ぶ。またコミュニケーション活動が円滑に行われるために、Conversation Strategies(CSs)を身に付け、より効果的なコミュニケーションの方法を学び実践する。さらに会話分析をすることによりコミュニケーション能力と相互作用能力をさらに向上させるためのアプローチを検討する。							
受講登録以前に準備すること							
テキストとパソコンを各自で必ず用意すること。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(高橋)
テキストの各レッスンで英会話の表現を学び、ペアワークを行い練習する。その後文字起こした会話を学生同士が分析する機会を提供する。テキストの予習・復習及び、会話を深く考察・分析するレポート作成のため、毎週4時間程度の予習・復習が必要。	
授業計画	
第1回	Orientation
第2回	Rejoinders and Follow-up Questions
第3回	Clarification Expressions
第4回	Clarification Questions, I and Comprehension Checks
第5回	Clarification Questions, II
第6回	Answering with Details
第7回	DISCUSSION
第8回	Paragraph Clarifications, I
第9回	Paragraph Clarifications, II
第10回	Answering for More Details

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(高橋)	
第11回	DISCUSSION	
第12回	DISCUSSION	
第13回	Interrupting Someone	
第14回	Words That Describe	
第15回	Telling What You've Heard	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート: 20% パフォーマンステスト: 80%(20点×4回)
その他	0	

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(福本)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C203	担当教員	福本 達也		
到達目標							
日本や中国などのアジアの国について説明できる。それぞれの国のことについて理解し比較することによって世界の中での立ち位置や関係について論述できる。授業の内容について自ら考え自分の意見を発表・文章化でき、レポートや論文が書けるようになる。							
成績評価の方法							
授業への貢献度(30%)、授業内の課題(30%)、期末レポート(40%)などにより総合的に評価する。							
テキスト							
教師作成の視覚資料を提供する。場合によっては映像を用いる。 参考資料・文献は授業中に知らせる。							
その他							
授業の内容・計画は学生の理解・習得の程度などにより変更することがある。							
講義内容							
日本や中国などのアジアの国の文化や社会などについて項目ごとに調べ比較しながら、それぞれの国や人々、社会について考察し、議論しながら理解を深め、自分の考えを発表したり課題作成をする。期末に授業で考察した内容をさらに深めるために期末レポートを作成する。							
受講登録以前に準備すること							
日中などの文化・社会・経済などに興味・関心を持つことが望ましい。							
取得可能な資格							
特になし							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(福本)
毎回、教師が各項目について講義・説明する。学生はその内容についてメモしたり考えたりした後、その内容について各自まとめる。その後、教師と学生間で質疑応答や議論をする。復習として課題作成をする。復習時間は毎週4時間程度必要。期末に授業でした内容の中からいくつか選んでテーマを決めて深く考察・分析しレポートを作成する。	
授業計画	
第1回	全体ガイダンス、オリエンテーション
第2回	ゼミクラスでのガイダンス、授業について 文化や社会などの国際比較について
第3回	日中などの地理について
第4回	日中などの歴史について
第5回	日中などの文化について
第6回	日中などの風俗・習慣について
第7回	日中などの精神文化・宗教・思想について
第8回	日中などの言語について
第9回	日中などの芸術・美術について
第10回	日中などの伝統芸能について

2026 北洋大学		
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科	
区分	演習科目 演習科目	
科目名	専門ゼミナールⅣ(福本)	
第11回	日中などの交通・通信・運輸について	
第12回	日中などの娯楽文化、サブカルチャーについて	
第13回	日中などの国民性、人間性、価値観、美意識、礼儀作法、生死観について	
第14回	日中などの社会問題について	
第15回	日中などの経済について	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	5回以上の欠席は単位認定できない。授業への貢献度(30%):授業での説明を聴く態度・姿勢、質問を行う度合いなどによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%) 授業内の課題(30%):要求した課題を指示通りに作成しているかによって評価する。(毎回0～2点評価)X15回＝30点満点(評価30%)
その他	40	期末レポート提出。40点満点。授業などで学んだ内容からいくつか選んでその内容について深く調査し分析してレポートを作成しているかどうかで評価する。レポート形式に則ってレポートを作成しているかどうかで評価する。

2026 北洋大学							
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科					
区分		演習科目 演習科目					
科目名		専門ゼミナールⅣ(田)					
副題							
対象	3年、4年	開講期		開講学期	2026年秋学期	履修要件	必修
種類	演習	時間数		単位	2	授業回数	15
カリキュラム	2021	教室	C325・C326	担当教員	田 桃雨		
到達目標							
逐次通訳の基本スキルを身につける。 疾患名、症状、治療法に関する専門用語を理解する。 日中通訳のスキル、医療通訳の基礎を身に付ける。							
成績評価の方法							
・授業への取り組み(30%):積極的に通訳練習に参加する必要がある。 ・課題の提出(30%):単語テスト、発表など。 ・期末試験(40%) :総合単語試験(10%)+模擬通訳試験(30%)							
テキスト							
配布資料							
その他							
※授業の進み具合によって、構成は変更になる場合があります。							
講義内容							
医療通訳理論、通訳に必要な通訳技術、専門職としての意識と責任、通訳実技など							
受講登録以前に準備すること							
通訳に相応しい言語能力 中国語話者:日本語N2レベル 日本語話者:HSK4級レベル							
取得可能な資格							
授業の方法							

2026 北洋大学	
学部・学科	国際文化学部 キャリア創造学科
区分	演習科目 演習科目
科目名	専門ゼミナールⅣ(田)
講義＋演習を中心に進める。ロールプレイ。専門用語の予習、通訳のフィードバックのため、週に予習時間2時間と復習時間2時間を必要とする。	
授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	医療通訳理論
第3回	医療通訳理論
第4回	通訳に必要な通訳技術
第5回	通訳に必要な通訳技術
第6回	通訳に必要な通訳技術
第7回	専門職としての意識と責任
第8回	患者の文化的および社会的背景についての理解
第9回	医療通訳者のコミュニケーション力
第10回	場面別模擬演習

2026 北洋大学		
学部・学科		国際文化学部 キャリア創造学科
区分		演習科目 演習科目
科目名		専門ゼミナールⅣ(田)
第11回	場面別模擬演習	
第12回	場面別模擬演習	
第13回	場面別模擬演習	
第14回	場面別模擬演習	
第15回	まとめ	
成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	40	・期末試験(40%) : 総合単語試験(10%)+模擬通訳試験(30%)
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	60	・授業への取り組み(30%):積極的に通訳練習に参加する必要がある。 ・課題の提出(30%):単語テスト、発表など。
その他	0	